異性に対する感覚を洗練せよ

岡本かの子

現代の女性の感覚は色調とか形式美とか音とかに就(つ)いて著(いちじ)るしく発達して来た。全(あら)ゆる新流行に対して、その深い原理性を丹念に研究しなくとも直截(ちょくせつ)に感覚からして其(そ)の適応性優秀性を意識出来(でき)る敏感(びんかん)さを目立って発達させて来た。これは新発明とか、創造とかには或(ある)いは適さぬ性質かも知れない。何故(なぜ)と言えば、余り深く一処(ひとところ)、一物(いちもつ)に執着して研鑽(けんさん)を積むという性質ではないからである。しかし、流行の吸収に最も適した性質であり、巧(たくみ)に模倣(もほう)を容易ならしめる特質である。

斯(か)くして現代の一般女性たちは、内外特殊の研究家

の創造発表するものを容易に採り上げて自由に利用するであろう。それだけでも昔の日本女性より、ずっと進歩していると言える。物の判断に於ても感覚を広く鋭くする事によって充分に正確に処断する事が出来るものであり、また実際現代の女性たちは意識無意識に拘らず、彼女等の感覚によって大過なく日常を処置しているようである。

従って彼女等をしてその特長の新感覚に広く磨きをかけさせたく思う。色調、形式美、音等に対する感覚ばかりでなく対人的、殊に異性に対する感覚をもっと洗練させ度い。

この点、まだ現代の女性はイージーでセンチで安価(あんか)な妥協(だきょう)をして了(しま)うのが多い。異性に対し、もっと高貴(こうき)で確(たしか)な潔癖(けっぺき)を持って貰(もら)い度い。潔癖のない女ほど下等で堕落(だらく)し易(やす)いものはない。潔癖を持つ事は時に孤独(こどく)な淋(さみ)しさが身を噛(か)む事もあるが、恒(つね)に、もののイージーな部分にまみれないではっきりとして客観的にものを観察出来て、結局ロング・ランには正当に自己を処理(しょり)させるに違いない。私は現代女性の処世法(しょせいほう)を、感覚の洗練から講(こう)じようとする態度が最も現代的だと信じている。

底本：「愛よ、愛」メタローグ
1999（平成11）年5月8日第1刷発行
底本の親本：「岡本かの子全集」冬樹社
1976（昭和51）年発行
入力：門田裕志
校正：土屋隆
2004年3月30日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんで

す。